介護 みんなで支える介護保険 No 160

問 保健福祉課　介護福祉係
☎476-1111（141）

◆認知症について正しい知識を持ちましょう part 13

先月号から引き続き『認知症の診断・治療』について紹介します。

《認知症の診断・治療～その２～》

・アルツハイマー型は薬で中核症状の進行を遅らせることができます

『塩酸ドネペジル』という薬が開発され、広く使用されています。衰えた海馬の細胞を活性化し、最大でおよそ10ヶ月、進行を遅らせることができますが、脳の細胞が死んでいくスピードを遅くしたり止めたりする作用はありません。本格的な治療薬は現在開発が進んでおり、遠くない将来ワクチン療法が可能になるかもしれません。

・脳血管性認知症は進行を止められることもある

脳血管障害の再発や怪我、身体の病気、環境の激変など大きなストレスによって階段を落ちるように進行することが多いので、これらを防ぐことにより進行が止まることもあります。事故や環境の変化が起こってしまったときは、本人が1人でストレスにさらされないようできるだけ保護的に支援することが重要です。

・精神症状には原因や状況に応じた療法を

中核症状以外の幻覚、妄想、うつなどの精神症状、失禁などの行動上の問題は、原因や状況に応じて、薬物療法や心理療法、環境の整理、周囲の人の理解など対応方法の工夫をします。

行動・心理症状と呼ばれるこれらの精神症状や、行動障害は、脳の細胞が壊れたこと（器質因子）、持って生まれた素質（素質因子）、その時その場の心理的環境的要因（社会心理的因子）が複合的に関与しておこります。したがって、まず正しい見立てをして、原因の推定をし、合理的な治療方針の決定を行い、現実的な対応をすることが重要です。

◆キャラバン・メイト連絡会の活動

年６回、町保健センターで大崎町キャラバン・メイト連絡会が開催されています。

『キャラバン・メイト』とは認知症サポーター養成講座を開催し，講師を務める人のことで、町内には16名のキャラバン・メイトがいます。

３月の連絡会では、１月から2月に開催した役場職員対象の養成講座の振り返りや、今後予定される小・中学校での開催についての話し合いが行われました。会長の山元 豊さんは「今後も自治公民館やふれあいサロン、老人クラブなど希望があれば可能な限り講座を開催し、大崎町が認知症に優しい町になるよう貢献していきたい。」と話されました。

『認知症サポーター』とは認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者です。平成28年３月末現在で町内に901名のサポーターがいます。

◆大崎町の介護保険事業の報告

介護保険事業実績についての報告（利用者の１割または２割負担を除いた大崎町の支払い分）

第1号被保険者（65歳以上の人）		4,965人	平成28年１月末日現在
要介護（支援）認定者		1,018人	
給付実績	在宅介護サービス費	45,441,389円	平成27年12月の給付実績
	施設介護サービス費	57,169,786円	
	その他（介護予防サービス費も含む）	32,628,848円	
	介護サービス費　　合計	135,240,023円	